

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 14

2007年10月発行

夏のレクリエーションイベント報告 ～その1～

遊ぼう！ニ行こう！

2007年7月7日(土) 9:30~16:00

集合・解散：地下鉄谷町線関目高殿駅

行き先：長居障害者スポーツセンター

参加者 33名

子ども：12名(うち障害児8名)、

保護者：8名(うちスタッフ2名)、

ボランティア：13名(専門学校5名、短大8名)

「ほうぷ」初めての外出イベント。スタッフは2名だけで、しかも子連れ。ボランティアもボランティア初体験の学生さんが大半。長居障害者スポーツセンターでボーリングをする予定でしたが、週末は混み合う上に団体予約は取れず、早い時刻に行き、ボーリングの予約をしなければとんでもない待ち時間になると聞き…。不安材料いっぱいスタートでした。

関目高殿駅に集合し、子どもとボランティアの顔合わせをして、「行きの道中で、お母さんから子どもと関わる上での注意点を聞いてください」とボランティアに伝え、大急ぎで電車に乗り込みました。とにかく事故無く帰ってこられますようにと胸中ドキドキのスタッフの横で、子ども達ははしゃぎ、学生達が笑っていました。梅田で乗換えをして長居に到着しました。

スポーツセンターの受付で、ボーリングの申し込みと待ち時間を過ごすための体育館利用の申し込みをしました。子どもとボランティア総勢25名がボーリングをやるには3時間くらいかかると言われ、急きょ、子どもだけのボーリング大会に変更。学生さん達、ごめんなさい！体育館で少し遊び、その後、館内の食堂で昼食を取りました。子どもとボランティアが体育館で遊んでいる間に、保護者の方々が食堂に団体席を作り、それぞれのメニューの希望を聞き、注文をしておいてくださいました。昼食の後、半数の保護者が帰られましたが、それぞれに電車賃の払い方や介助の注意点など、子ども担当のボランティアにしっかりと伝えてくださいました。子どもと学生がペアになって、ボーリングを楽しみました。

帰りは、梅田の乗換えでエレベータ使用の車椅子グループと歩きグループが別ルートのためはぐれてしまい慌てましたが、携帯で連絡を取りあい、東梅田から一緒に電車に乗ることができました。～保護者の方々のサポートのおかげで無事に終了しました。感謝いたします！～

<参加者の感想から>

- ・ いつもは父と2人で出かけ自由気ままに楽しんでいます。今日は子どもなりに一緒に行った人たちのことを意識して、自分で自分の欲求とうまく折り合いをつけながら楽しんでくれたと思っています。私もこれなら皆と一緒に出かけても大丈夫かなと自信が持てました。知らないうちに成長してました。やっぱりどんどん皆とつながって外に出ていかなきゃーと思いました。
- ・ 「小体育館のトランポリンやボーリングが楽しかった。また行きたい」と子どもが言っていました。初めて行きましたが子どもたちが楽しそうだったのでよかったです。
- ・ イベントは楽しかったです。でも地下鉄の駅員、スポーツセンターのフロントなど、お役所仕事の人たちには、がっかりでした。スポーツセンターの施設利用のシステムがややこしく、何度も受付をしなければならなかったのが、利用者本位ではないと感じました。
- ・ 地下鉄の駅員さん、スポーツセンターの受付の対応が悪くて、びっくりしました（他の方は親切な人も多かったのですが）。そんなことにとらわれず、終始楽しそうにしている子どもを見て、みんなで行って良かったと思いました。最後まで居てもっといっぱい皆さんと話したかったです。スポーツセンターの多目的トイレが少なくて少し困りました。
- ・ 初めて会う人達と長い時間一緒に過ごすので不安もありましたが、いつもの子どもと変わりなく過ごしていました。ボーリングも楽しく参加できました。今回参加させていただきこれからもどんどん、子どもに楽しく過ごせる事や場所が多くなれば良いと思います。

<ボランティアの感想から>

- ・ 初め、「なついてくれるかなあ」などと不安がありましたが、すごく明るい活発な子で、私が元気をもらいました。時間が経つにつれ、自分から手をつないでくれたりして、すごく嬉しかったです。トランポリンをしている時やボーリングでスぺアを取った時の笑顔がすごくかわいくて、もっと子どもが好きになりました。直接、お母さんがいろいろと教えてくださり、大変勉強になりました。
- ・ 一日すごく楽しかったです。Kくんは電車のことをすごく詳しくてびっくりしました。初めはうまく関われるか、初めて参加させてもらったのでとても不安でした。でも、人見知りもなく、抱っこもさせてくれてとても嬉しかったです。また会う機会があればいいなあと思います。そして、その時は、もっとお話したいです。
- ・ Kくんは初めあまりしゃべってくれず笑顔も見られなかったけど、一日中、一緒にいるうちに話しかけてくれるようになって笑ってくれるようになり、本当に嬉しかったです。妹のHちゃんはすごくしっかりしていると思って感心しました。2人とも元気すぎるくらい元気で、急に走り出したり、どこにそんなに元気が詰まっているのだろうと思いました。こちらも元気をもらいました。エレベーターが大好きなのが印象的でした。ボーリングもストライク出したんです！
- ・ 始め方はずっと接し方がわからなくて、どうしようと思っていましたが、時間が経つにつれて、肩をたたいてくれたりして嬉しかったです。ボーリングの音が大きかったのが嫌だったみたいですが、ボールで遊んでいる時はすごく楽しそうにしていました。



- ・ ボールを投げたり蹴ったりして遊びました。「世界にひとつだけの花」を歌うととても嬉しそうでした。「六甲おろし」でも嬉しそうにされていました。一日とても楽しかったです。
- ・ 私は初めてボランティアに参加したので緊張していたのですが、Tくん、Sくん兄弟から名前を聞いてくれたり、すごく積極的に接してくれてとても嬉しかったです。体育館では、2人ともトランポリンが好きでとても楽しそうでした。Tくんはバスケのシュートを一発で決めてとても上手でした。ボーリングではSくんもTくんも本当に上手でビックリしました。好きなこととか得意なことの話もたくさんしてくれとても仲良くなれた気がします。
- ・ 初め、Nちゃんに会った時、正直、「かわいそうだなあ」という気持ちを持ちました。でも、一緒に過ごしていくにつれ、私の見方が変わってきました。初めはNちゃんの伝えたいことを理解できないことにとっても苦痛を感じていましたが、自分の思ったことを一生懸命伝えてくれようとして、しっかりしている子やと思いました。いろんなこと・物・人をじっと真剣に見ている顔を見て、いろいろなことをいっぱい考えているんだなあと思いました。

<保護者からボランティアへのメッセージ から>

- ・ やはり疲れたようで(たぶん体力的にというより、あの子なりにがまんしたり気を使った？せいですが) ボーッとしましたが、夕食を食べパワー復活！子どもは、優しくてきれいなRさんが好きで一緒に楽しく過ごしていたと思います(実は面食いかも)。親として手を出しすぎてしまったなあーと反省しています。もっと2人のコミュニケーションを深めてもらったらよかったなあーと。子どもは一人一人違うけど、していい事したらほめ、してはいけない事をしたら叱りやめさせる。どんな子に接する時もこれが基本だと思います。遠慮せずどんどん伝えてやってくださいね。それではまたお会いできることを祈って。
- ・ 親は「疲れているだろう」と家に着くとシャワーをしてゆったりさせていようと思いましたが…、2人は元気です！今日はありがとうございました。のびのび楽しそうな2人を見ていて、またお出かけに参加したいと思いました。
- ・ 2人ともとても嬉しそうにボーリングの時のことを話していました。「夏休み中にボーリングに行きたい」とも言っていました。ボランティアのお2人は、やんちゃな息子達に笑顔で話してくれていたこと、子どもの話にしっかりと耳を傾けていただいたことなど、感謝しています。

<スタッフ振り返り>

多くのボランティアと参加者が早くに集合してくださり、集合時刻10分前には子どもとボランティアの顔合わせができて良かったのですが、集合時刻後すぐに電車に乗り込んだため、集合時刻ちょうどに到着した学生さんへの対応が充分でなく戸惑わせてしまい申し訳なかったです。また、休日でボーリングの団体予約ができず、スケジュールの時間設定は難しかったのですが、一日の流れを「しおり」に書いてお渡しすれば、子ども達の楽しみも増し活動の理解もしやすかったと思いました。たくさんの反省点がありました。

準備不足が多々ありましたが、お昼の席の確保や注文、帰りの指示など、保護者の方々が主体的に動いてくださり助けていただいたおかげで無事に終了することができました。

初めてボランティア活動に参加される学生さんが多かったのですが、いろんな気づきをされた学生さんも多く、「障害」とはなんだろうと考えるきっかけになればと思います。子ども達と遊んで、次なる気づきをしていただければと思います。

夏のレクリエーションイベント報告 ~その2~

クッキング & 保護者交流会

2007年8月24日(金) 10:30~15:30

① みんなで楽しくクッキング & お買い物

旭区民センター 調理室

協力：千里金蘭大学人間社会学部社会福祉コース



参加者 42名

子ども：16名(うち障害児9名)、

ボランティア：23名(専門学校5名、短大3名、大学14名、
高校生1名)

スタッフ3名

調理室を使つての初めてのクッキングイベントを開催しました。千里金蘭大学の学生さんの企画、運営で、大学との協働事業でもありました。子どももボランティアもたくさんの参加があり、大阪社会福祉士会の仲間2名も参加してくださり、にぎやかなイベントになりました。

9時半にボランティアが全員集合して準備に取りかかりました。10時半、子ども達を迎えてスタート。今日の予定を説明した後、グループに分かれて、近くのスーパーに買い物に行き調理をしました。おいしいランチができました!

[メニュー]

◎ 煮込みハンバーグ ◎ サラダうどん ◎ フルーツポンチ

[スケジュール]

9:30 ボランティア集合

打ち合わせ・担当の子どもの連絡票の確認

クッキングの準備など

10:30 子ども達集合 **おはよう!**

保護者からの説明 子ども連絡票の回収

10:40 自己紹介 **よろしくおねがいしま〜す**

スケジュールの説明

11:00 買い物へ **いってきま〜す**

グループに分かれ、買い物リストを持って

11:30 紙芝居を使って料理の手順を説明

11:45 料理開始

手洗いはしっかりと、ね! 包丁気をつけて!

14:00 食事 **いただきます〜す!**

保護者も試食

14:45 後片付け

子ども報告表の記入

15:00 終了 **さよなら〜**

保護者への報告 片付け

15:30 ボランティア振り返りタイム



<ボランティアの感想>

21人が「楽しかった」と回答。理由として、

- ・ 多人数で調理したり、買い物に行く機会もないから
- ・ 班で作業することが多く、いろんな子どもと触れ合えたから
- ・ 子ども達の笑顔、楽しそうな様子が見ることが出来たから
- ・ 前よりもまた少し子どものことを知れたから などがあげられました。

「普通」と回答した学生さんは「子どもに対してどう対応しているのか悩んだ」とのこと。

感想から

- ・ 初めて参加したので、始めは緊張していましたが、でも、いざ始まってみると、一緒になって楽しんでいました。もっと深く関わりあいたいと思いました。
- ・ 障害をもっている人と料理をするのは難しいことだと思っていましたが、まったくそうだったことはなく、とても楽しみながら進めることが出来ました。
- ・ 私が担当した子は本が大好きで、そしてマイペースで、自分の世界が好きな子だと思っていました。時々、本に集中してしまった時、なかなか動いてくれなかったのですが、どう対応したらいいのかわからなくなりました。
- ・ どう接していいのかわからなくて戸惑ってばかりでした。途中で料理の方が気になって、そっちに集中している間に喧嘩が起こってしまって、どうしたらいいのか焦りました。
- ・ トラブルがあるのは仕方ないとして、どう対処するかが大切だと思いました。
- ・ 子ども同士の喧嘩もありましたが、スタッフの方々の対応を見て、勉強になりました。
- ・ 子どもが伝えたいことや、言いたいことがすべて理解できていないと思いますが、なんとなくこうかな？こうしたいのかな？と思い確認し、楽しむことが出来ました。子どもも楽しんでくれたのであればうれしいなと思います。
- ・ 片付けをしていたら担当ではない子から「ご飯食べさせて」と言われてうれしかった。
- ・ ボランティアに参加したのは初めてだったけど、思っていたよりも他の学校の人とも話せたし、子ども達は初めて会う人なのに、どんどん話かけてくれてうれしかったです。
- ・ 始めは少し戸惑いを感じていましたが、子どもと関わるにつれてだんだんと慣れて、活動を楽しむことが出来ました。子どもの笑顔や楽しそうな仕草を見るととてもうれしかったです。ハンバーグを作るということを通して、子どもとの距離が近くなったし、心がうちとけてきた感じが得られたのでよかったなと思います。
- ・ 個別に遊んだり、勉強したりとはまた違った内容で、子ども達のいろんな顔や行動が見ることができて「実はこうだったのか」「へえ、こんなことが出来るのか」など、とても楽しませていただきました。
- ・ 料理を「おいしい」と言って食べてくれてよかったです。
- ・ 子ども達から私の方が教えられることが多かったです。



(紙芝居を使って手順説明中)

<保護者から学生さんへのメッセージ から>

- ・ パワフルな子なのでとても疲れただろうと思います。アクシデント(喧嘩)にもめげず、一生懸命食べてました。苦手な野菜と果物も完食！きっと自分がかかわって自分なりに頑張ったからだだと思います。そして気長に彼のペースに合わせてもらったからです。
- ・ お姉ちゃんは「たのしかったー。私にもお姉さんつけてくれて、よかったあー」と言って、

内容や手順をうれしそうに話してくれました。弟の様子も報告してくれたりしました。弟の方も、楽しかったようでした。

- ・メニューを見て、本人がとても（料理を）楽しみにしていたのでとても良かったです。買い物から行けたのがすごく良かったと思いました。



<スタッフ振り返り>

子どもの遊びにケンカはつきものです。手が出るのもよくあることです。調理の中盤、A君とBちゃんのケンカが始まりました。火気を利用している部屋のなかで起こったことでもあり、みんながヒヤリとした瞬間でした。

(いただきま〜す！うまくてきたかな?)

A君もBちゃんも言葉だけで気持ちを伝えることが苦手ながらも、相手との関係をどうにかしたいという思いを、大きな声や身体をつかって精一杯表現していました。スタッフが身体の小さいA君を抱いて、Bちゃんから離れることにしました。追いかけてくるBちゃんの動きをとめるようボランティアさんをお願いすると、たまたまそばにいた学生のXさんがBちゃんの身体を抱きとめてくれました。2人をいささか無理矢理に引き離すことによって、A君とBちゃんの身体にダメージがなくてすみました。また、周囲の子どもたちの不安感を鎮めることができました。

ふりかえりの場面で、ケンカをとめてくれたXさんは、「Bちゃんを押さえつけてしまったけれど、あれでよかったのか・・・」と率直に語ってくれました。スタッフには「落ち着いてね」と抱きしめているように見えたのですが、とはいえ、Xさんの悩みを手がかりにして、スタッフ自身も次のような気づきを得ることができました。

同じ言動であっても、お互いの関係性によって言動の意味は大きく異なります。ボランティアのXさんは、Bちゃんと異なるグループであり、互いに関係が十分にとれていないなかで、突然の出来事としてケンカをとめに入ってくれました。もし、2人が同じグループで、一緒に笑う時間や、一緒に手を繋ぐ時間や、一緒に美味しいものを食べる時間があれば、「身体を押さえつける」という感じ方も和らぐのでしょうか。また、ケンカがおさまってから、「ビックリさせてごめんね、Bちゃんだけが悪いわけではないのに、ケンカをやめて偉かったよ。」などと、Bちゃんに言葉と身体で伝える時間をつくることができたなら、ケンカをとめる行為を契機にして互いの関係を深めることができたのかもしれない。そのようなコミュニケーションを促す配慮がスタッフ側に欠けていたことや、グループを超えてコミュニケーションをとる工夫がプログラムに不足していたと省みています。

また、ケンカが始まったとき、A君とBちゃんの兄弟姉妹がスタッフに駆け寄り、ケンカの原因や兄弟姉妹の心情を一生懸命に説明してくれました。その時は、ケンカを収めることで精一杯でしたが、兄弟姉妹の思いを十分に汲み取ることができなかったことと、ケンカを収めることに協力してくれたお礼を伝えることができなかったこともスタッフ側の反省点です。

予定調和のような支援がままならない場面にこそ、支援者の想像を超える本人らしさがあらわれます。そのような本人らしさを受けとめながら、どのようにかかわるかがボランティアや支援者に問われます。「一緒にいる」「かかわり続ける」ということこそ支援の原点であり、学生ボランティアの方々がそれをさりげなくされていたことがステキでした、また、明確な答えのない支援というものをふりかえって「悩み続ける」姿もステキでした。

② 保護者交流会

旭区民センター 集会室3

参加者 保護者：11名（スタッフ2名含む）

記録ボランティア：1名(大学院生)

今年度2回目の保護者交流会。今回は、全員で大きな輪になって話をしました。ほとんど顔見知りになったお母さん達でしたが、自己紹介の後、兄弟姉妹の関係について、友だちとの関係作り、中学進路選択について、中学の先(義務教育後)についてなどの意見交換を行いました。前回の保護者交流会と共通した内容もあり、兄弟姉妹のサポート、自立に向けての支援など、今後のほうぶの活動の方向を考えさせられる交流会でした。

<交流会意見交換>

① 兄弟姉妹の関係

ひとりっこが2名だけ、あとは2人、3人、4人と兄弟姉妹の多いご家庭でした。「先に中学に行く兄の方が心配。小さな頃はしっかりしなればと思っていたようだが、思春期になってきて寂しさや不満も出てきたよう」「中学生の姉の精神状態が心配」など、思春期を迎える兄弟姉妹を心配する声がでていました。

② 友だちとの関係作り

友だちと関係を作っていくためには、友だちと一緒に過ごす時間が長い方がいいのでは？と、学校での過ごし方(養護学級・普通学級)の話が中心となりました。

小学生のお母さん達からは、「親の『できへんやろう』という予想をつぎつぎ覆してもらって、いろいろできるようにしてもらった。みんなの中で育つということを考え直す日々だった」(養護学級と普通学級と半分半分のケース)や「最近、友だちと比べてできないことを悩んでいるようで、なんとか自信を取り戻させたい」(ずっと普通学級のケース)などさまざまで、「まだ低学年だから迷うことも多いけど、長い目で見たら、普通学級で過ごす方がいいかなあと思う」など揺らぐ思いが語られました。

中学生は普通学級で過ごしているお子さんばかりで、「小学校のときはほとんど養護学級で過ごしていたが、中学になって普通学級でずっと過ごしている。友だちの中に入ってクラブ活動を楽しんでいるわが子に感動した」「中学になると教科で先生は替わる。ずっと一緒にいるのは友だちで、子ども達のほうが教師より子どものことをよく知っている。年齢が上がって、必要なところを手伝ってくれ、厳しい部分も出て、子ども同士の関係がよりよくなっていると感じる」と普通学級での積み重ねからの感想もありました。

ずっと普通学級に居るのがしんどい子どももいます。逃げ場所も必要です。でも、「養護学級に居続けるということは、普通学級で逃げ続けなければいけないような授業が行なわれているということ？それは教師の問題？」という問いかけもあり、解答の出ない悩みに話はずきませんでした。

③ 中学校の進路選択

大阪市では「地域の中学校に行くか、養護学校を選ぶか」は「子ども本人と保護者の希望による」となっています。でも、「本人がどうしたいのかわからない」という意見に対し、「子どもに決めさせるのは厳しい選択で親が決めなければならない問題だ」という意見や、「大人になった時のことを考えて、今、その子にとってその時にしかできないことは何かを子どもと話し合っ決めて、親が勝手にルールを決めるのも良くない」という意見があ

り、選択を迫られる親達の悩みを受けて話しがすすみました。

「中学から職業訓練をするのが嫌。普通の学校の雰囲気を変えたい」という養護学校への抵抗感や、「地域の中学でがんばらせることは、能力を考えるとしんどいことをさせることにならないかと不安。子どもに高望みをしているのだろうか」という地元の中学に行くことの揺らぎが語られました。「自分が成人式に行ったのは中学の友達だった。成人式と一緒にいく友達がいないのは寂しい」「中学で養護学校に行くと普通高校には行けない」という中学卒業後を考えての意見もありました。

納得のいくまで悩んだらいいという結論に。悩んだ末に出した答えは間違っていない。どの学校を選んでも、子どもと家族が地域から孤立していかないように、子どもが自分らしい生き方を自分で選んでいくことができるようにと願っています。

④ 義務教育後

先の中学の進路選択の問題を受けて、高校への入学の話に。自立支援コースを選ぶ場合と一般受験をする場合があること。自立支援コースは、設置されている学校に限られ、それぞれ定員が2、3名。面接と書類で決定。選考基準は不明。公立高校だけでなく、私立高校やフリースクール、専修学校などもある（運動場ない場合もあるが）など、情報交換がされました。

⑤ その他

夏休みの最後で宿題の追い込み時期であるため、宿題のことや教材、学校生活で使える用具の工夫などの情報交換がされました。

<保護者の感想から>

- ・ 目の前の問題に頭がいっぱいな私でしたが、みなさんの情報から、もっと先の将来的なことを考え始めなければいけないと思いました。それをふまえた上で進路への参考にさせていただきたいと思いました。
- ・ 来年の中学入学へ向けて“先輩の声”は参考になりました。自分の子どもにあったやり方を模索していきます。
- ・ 進路についての話が参考になりました。
- ・ 進路は常に悩むこと……。多くの選択肢があって選べるといいなあ、と思いました。
- ・ 中学のことについて、いろいろな話を聞いて良かったです。
- ・ 今のところは、もちろん長い目で将来のことを考えつつ、無理をせずに日々を過ごすことの大切さを感じました。
- ・ 中学校選択は人生の大きな選択で、今から悩み続けると思います。
- ・ 中学校と小学校の違いや、地域の小学校によって学級のあり方などが違うことを知りました。地域とのつながりが大事なことも実感しました。
- ・ 養護学級が無く、普通学級にずっといる学校では日々しんどいところもあつたりもするが、日々の積み重ねが長い目でみると中学への進学へも無理なくやっていけるのかな、と先輩方のお話を聞いて感じました。
- ・ 高校のことを漠然としか考えてなかったのですが、今日のお話を聞いて良かったです。

やはり、一番の悩みは中学校の進路選択のようです。どの学校でも全ての子どもを包み込む教育が行われて、親が悩むことなく進路選択できるような環境になって欲しいと思います。

地域情報 ～子育て支援～

● 旭区子育てマップの発行

あさひあったかまちづくり計画をすすめよう会の「こども班」において作成が進められてきた[旭区子育てマップ]が発行されます。A3サイズ1枚(両面印刷)で子育てサロンや子育てサークルなどを中心にした情報が掲載されています。

上記、11月15日の子育て支援講演会から配布開始

● 不登校児支援関連機関・団体(旭区)の紹介チラシ

「あさひ不登校ねっと」において話し合い作成が進められてきた不登校児支援に関する情報チラシ(A4サイズ)の配布を行なっています。不登校に関する相談先として、スクールカウンセラー、ほっとスペース生江、ほっとスペース両国、旭区役所子育て支援室の利用方法や、親の会の情報が載っています。区内各中学校、一部の小学校でも配布されました。旭区内の公共機関、ほっとスペース生江、ほっとスペース両国、旭区役所の地域保健福祉課(2階)などにあります。

ほうぷにもありますので、ご希望の方はお知らせください。お送りさせていただきます。

不登校で悩む人の「虹のかけはし」に
～ひとりで悩まないで～

不登校児支援関連機関・団体のご紹介(2007年度)

スクールカウンセラー
旭区役所子育て支援室(2階)に設置されています。旭区内の中学校・小学校に設置されています。旭区役所子育て支援室(2階)に設置されています。旭区内の中学校・小学校に設置されています。

ほっとスペース
旭区役所子育て支援室(2階)に設置されています。旭区内の中学校・小学校に設置されています。

旭区役所 子育て支援室
旭区役所子育て支援室(2階)に設置されています。旭区内の中学校・小学校に設置されています。

不登校の親の会「サークル虹」
旭区役所子育て支援室(2階)に設置されています。旭区内の中学校・小学校に設置されています。

あさひ不登校ねっと
旭区役所子育て支援室(2階)に設置されています。旭区内の中学校・小学校に設置されています。



今年度、障害をもつ中学生を対象に「個人将来計画」の作成と実践の試行錯誤をしている。子どもを取り巻くさまざまな人たち一親、兄弟、親類、教師、クラスメイト、ヘルパー、ボランティア等などが集まり、子どもの「やりたいこと」や「一緒にやってみたいこと」を語り合う。「言語」というコミュニケーション手段をうまく使えない子どもの想いを受取るために、いろんな人が五感を働かせて日々の行動や表情からキャッチした「子どもの想い」を伝え合い、「子どもの想い」を描き合う。その場は、たびたび笑いが起こり、子ども本人も参加者も温かな空気に包まれる。「夢」を語り合うことは楽しいということを感じる時間である。